戦略的芸術文化創造推進事業
５年成果報告書

団体名称	株式会社 東京演劇集団風
担当者連絡先	（担当部署） （氏　　名）江原早哉香 （電　　話）03-3363-3261（劇団代表電話） （アドレス）sayaka@kaze-net.org

１．事業内容

課　題	課題ⅱ　地方や離島・へき地等において、優れた文化芸術活動を鑑賞・参画する機会と社会的価値等を創出する取組	
事　　業　　名	《契約件名》	舞台芸術による地域活性化事業【未来誕生】
事業期間	平成　30　年　7　月　1　日　～　令和　5　年　3　月　31　日 ※契約期間を記載	

事業内容

私たちは、５年間３地域（島しょ部2地域、被災地1地域）において
「未来とともに、そしてひとりの未来のために」地域の方々と協働し、
舞台芸術公演を行ってきました。
※５ヶ年の事業内容、その実施の様子は「別紙・報告資料」をご参照ください。

《実施地域紹介》

長崎県島しょ部

４７都道府県の中で最も多くの島をもつ、長崎県。その九州最西端の島、五島列島の北部に位置する「新上五島」。舞台芸術を鑑賞する感動から、自らも表現したくなる体験活動へ。子どもたち・地域の方々と島の新たな物語を描いてきました。

共催:新上五島町教育委員会

熊本県被災地

2016年4月の熊本地震の被災地、上益城郡。さらに2020年7月の豪雨被害を受けた県南地域。復興のシンボルである熊本城のある熊本市。子供たちの笑顔、地域を元気に！を合言葉に広域な地域を巡りました。

共催:御船町教育委員会、熊本市城南公民館

島根県島しょ部

北に約60キロ、日本海に浮かぶ隠岐諸島。海士町（中ノ島）、西ノ島町（西ノ島）、知夫村（知夫里島）の３つの島・自治体で形成するのが島前地域です。文化芸術で３島に橋をかけ交流を生み出すべく、令和２年度より３ヶ年取り組みました。

共催・島根県立隠岐島前高等学校

※事業年ごとの内容を記載。
※写真等のデータを用い、詳細を記載すること。

URL	別紙・報告資料内容 「未来誕生」が歩んだ５年間　①５カ年実施内容一覧　②実施プログラム一覧　③写真ページ ※成果報告の内容が分かるページを記載

事業内容

5年間を通じ、地域に暮らすすべての子供たち、住民の皆さんが、本格的な演劇を鑑賞・体験できる演目選定を行ってきました。さらに、演劇を観たことで生まれた子供たちの想いを表現し、人に伝える芸術交流活動にも取り組みました。

子供たちの参加型公演

星の王子さま

作 サン=テグジュペリ　構成・演出 浅野佳成

一人の少年の冒険と成長を描き、あらゆる人を想像する楽しさへと誘うファンタジー作品。観客の参加共演シーンが散りばめられている。舞台手話通訳・音声ガイド・日本語字幕を演出に組み込んだ「バリアフリー演劇」での上演も実施。

子供たちの参加型公演

ヘレン・ケラー～ひびき合うものたち

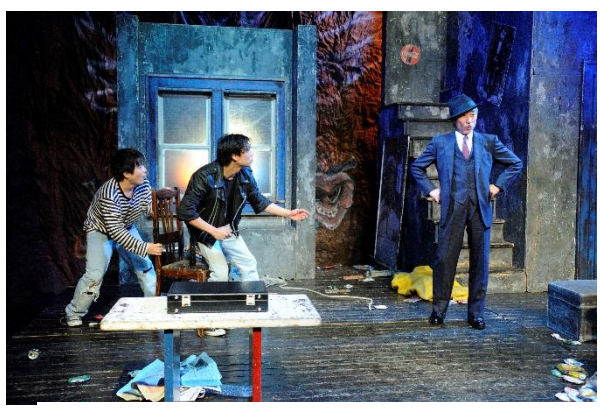
作　松兼 功　演出　浅野佳成

三重苦のヘレンと教師アニー・サリバンの出会いの物語。フィナーレでは指文字と手話での参加場面があります。「バリアフリー演劇」での上演も行いました。

ジャンヌ・ダルク

作　マテイ・ヴィスニユック　演出　浅野佳成

自らの信念を貫き、人々の心を動かし、奇跡を起こした少女ジャンヌ。パペットや影絵なども用い、演劇の多様な面白さを伝えるオリジナル作品です。



Touch～孤独から愛へ

作　ライル・ケスラー　演出　浅野佳成

孤児の兄弟の元に「元気づけてやろう！」と現れた一人の男。触れ合う中で変化する3人の姿を通して、今を生きる私たちを励ます物語。

エクリチュール・バガボンド

企画・演出　オリビエ・コント

子供たちが自ら描いた「夢」を持って、街へと出かけていくアウトリーチ活動。子供たちの伝えたい想いが教室・学校を飛び出し、地域に暮らす人々の元へ届けられます。

トビウオの森 とびうおドリームプロジェクト

企画・演出　オリビエ・コント

長崎の名産「とびうお」の形におられた和紙に描いた子供たちの「夢」。「夢のとびうお」が海を越え、年齢の違いや障害の有無、言語の壁も飛び越えて、日本各地・世界を飛び交う、世界初のプロジェクトです。

２．事業の目標・成果

1	**公演数・観客数等定量的な成果について** 各年度の実績及び次年度に向けての取組みについて記載。			
初年度における ５年後目標	（単位：人　）	H30	H31(R1)	R2
3地域において、 のべ22,000人の子供たち・地域住民が優れた文化芸術に触れ、鑑賞・体験・参画できる機会を創出する ① 長崎県島しょ部 新上五島町人口の約50% (9,000人) ② 熊本県被災地 上益城郡の10,000人 ③ 島根県島しょ部 隠岐島前地域(3島)人口の 約50%(3,000人)	単年度目標	観客数 1,800人 [3地域 6公演]	観客数 3,200人 [3地域 11公演　3回バガボンド]	観客数 4,400人 [3地域 13公演 2回バガボンド]
	実績	**観客数 1,341人 [2地域 4公演]**	**観客数 2,359人 [2地域 9公演 2回バガボンド]**	**参加体験者数 2,234人 [3地域 1公演 3回配信公演 19回とびうおプロジェクト]** ※感染症のため計画を大幅に変更し実施
	各年度における実績を元に、次年度に向けての課題や取組み	H31年度に向けて… ・広範な地域住民の鑑賞参画機会の創出を望む声が多く、一般公演の拡充を検討 ・限られた予算のなかで、ひとりでも多くの人に鑑賞参画機会を創出するため、複数回公演、有料公演の実施を検討。各地の現状に合わせて、地域の人・子供たちが足を運びやすい開催日・料金を設定する ・実施が叶わなかった開催地においても、公演の実現に向けた協議を続けた	R2年度に向けて… ・学校や文化施設だけでなく、町全域で行った「バガボンド」の活動によって、幅広い地域住民の文化芸術体験機会を創出できた。うちでもやりたい！継続してほしい！等の声に応えていくため現地での打合せを重ねた ・入場料が有料となったことで、会場に来ることができない地域住民・子供たちもいた。今後入場料だけでなく、地域の個人・団体からの協力金や協賛品へと方針を変更する	R3年度以降に向けて… ・感染拡大に伴い、公演開催→とびうおプロジェクト・配信公演へと事業内容を変更。これらの取組を前提に、鑑賞参画機会を創出するための新たな企画を検討した（小規模で活動する体験活動・オンラインでの交流会、複数回公演等） ・熊本県で発生した豪雨災害の被災地（球磨郡）へ鑑賞機会を創出するため、実施地域を広げる。校舎やまちの復旧具合をお聞きしながら、次年度の開催地や開催時期を決定した
	（単位：人　）	R3	R4	達成率
	単年度目標	参加体験者数 4,400人 [3地域 12公演 1回とびうおプロジェクト]	観客・参加体験者数 3,500人 [3地域 12公演 1回バガボンド 1回とびうおプロジェクト]	参加体験者数　37%
	実績	**参加体験者数 4,304人 [3地域 1公演 3回配信公演 44回とびうおプロジェクト]**	**観客・参加体験者数 2,515人 [3地域 10公演 1回配信公演 13回とびうおプロジェクト]**	
	各年度における実績を元に、次年度に向けての課題や取組み	R4年度に向けて… ・特に、感染拡大により島しょ部での公演が2年間実現できていないため、当初計画よりも次年度目標値を下げ、客席数の半数制限・複数回公演も前提に公演実現を目指す ・ひとりでも多くの子供たち・地域住民に機会を創り出すため、現地のものづくりと連携し、地域内・全国にむけた応援プロジェクトを開始。オリジナルグッズの売上金を諸経費へと充当させる ・離島・へき地へ向けた本事業を海外へも発信	R5年度以降に向けて… ・特に島しょ部では感染防止対策の基準がなお高く鑑賞者数が制限されたため、今後も5年間で培ったネットワーク・工夫を発展させ、各地での鑑賞参画機会を創出する ・これまで活動を体験した3地域、全国・海外の子供たち・大人たちが各地域を訪れ、一緒に芸術活動を行う芸術交流を計画すると共に、事業成果を発信し続ける	初年度の目標値に対し、 5年間の鑑賞体験者総数（のべ12,753人）から、達成率を算出。 ①3,320人（36%） ②7,032人（78%） ③516人（17%）

2	＜課題解決＞における成果について 「課題ⅱ　地方や離島・へき地等において、優れた文化芸術活動を鑑賞・参画する機会と社会的価値等を創出する取組」 について、各年度において課題解決するための取組目標及び事業実施による成果・変化、次年度に向けての取組を記載。

初年度における ５年後目標と現状		H30	H31(R1)	R2
教育・行政と連携し、 舞台芸術鑑賞・参画機会を創出することで、 地域に暮らす子供たちが「誇りを持って育っていく」学校・まちづくりに取り組む **❶** **「学校や地域が今まで 以上に好きになった」 と回答する児童・生徒 《目標》 アンケート回答率100%** **❷** **「舞台芸術を通して、 自分たちの暮らす地域・ 学校が好きになる」 と感じる地域住民 《目標》 アンケート回答率100%** **❸** **事業の趣旨に賛同し、 地域に根付き、活動する 「協力者・協力団体」 《目標》のべ600人**	単年度目標	学校での参加型公演と地域の文化施設での鑑賞型公演を開催し、学校や地域・行政の方々との信頼関係を築く。 子供たちを核とした地域の活発な動きが生まれてくることを目標とする。 ❸ 60人	学校・教育委員会と協力連携し、子供たちの芸術活動を推進。さらに文化施設を拠点に公演と学校の文化活動を住民へ発信。 社会福祉施設と連携し､障害のある人も共に舞台芸術に参加する機会を創出する。 ❸ 200人	市町村と教育委員会・地域の主導者の協力のもと、学校・教育委員会を核に、より広範な地域の人々の鑑賞・参画機会を創出。特に文化施設運営者と連携して、地域の誰もが舞台芸術を鑑賞・体験できる環境づくりに取り組む。 ❸ 300人
	実績	**◆「とても良かった」と回答…79%** （「今日の公演はいかがでしたか」という問いに対しての回答） **❸　105人（個人96・団体9）** 学校では、不登校の児童も一緒に鑑賞・参加できたことで、その後の家庭・地域も変化し、徐々に登校できるようになった。 子供たちの変化に大人たちが敏感に反応し、新たな要望も生まれた。 参加型公演を体験した子供たちが、父母や地域住民を誘って文化施設にも来場。会館設立以来初となる満員の観客となった。 舞台芸術への興味関心の高まり、地域での新たな話題・コミュニケーションが生まれている。その結果、目標値を上回る協力者が集まった。 熊本では事業のことを知り、「被災後の文化施設の再オープンと同時開催したい」という要望が生まれた。	**❶ 37%（長崎34%・熊本40%）** **❷ 21%（長崎23%・熊本19%）** **❸ 218人（個人185・団体33）** 全国初のバリアフリー演劇一般公演では障害のある人たちがイキイキと鑑賞する姿に大きな拍手が送られ、地域住民の障害への理解の深まり、障害のある人もない人も共に暮らせるインクルーシブな地域づくりへの一歩を踏み出した。 国内初の実施となった「バガボンド」では活動後「子供たちがすすんであいさつするようになった」「自分の考えや意見をクラスの友達などに進んで話すようになった」などの変化があった。 さらに、一般公演の広報活動や運営を協力者が担い始める。	**❶ 26%（熊本のみ）** **❷** 集計なし（公演中止のため） **❸ 312人（個人263・団体49）** 協力者との信頼関係があったことで、感染拡大のなかにあってもライブでの1公演・とびうおプロジェクトを12ヶ所で実現。コロナ禍での子供たちの教育・表現活動に貢献することができた。「夢を改めて考えた」「いつもとは違う表情で真剣に取り組んでいた」など、子供たち・教員が新たな一面を発見する機会ともなった。 さらに、協力者との連携を強化し、リモートでのワークショップ、ケーブルテレビを活用した配信公演も実施。行き来ができないなかでも、地域住民間の交流へとつなげた
現状 長崎県島しょ部 （新上五島町を中心とする） ・地域の少子高齢化・過疎化が進んでいる ・不登校や障害のために発達支援センターに通う子供たちも増えてきている ・学校現場では、子供たちの誰もが演劇公演を体験し、共通の思い出を育むことを教育の一環としたいと考えている ・「文化の薫り溢れるまちづくり」に取り組み、文化活動から町の活性化を図りたいという希望がある **熊本県被災地 （上益城郡を中心とする）** ・地域の文化施設が被災し、文化芸術公演が著しく減少している ・校舎が倒壊するなどの被害によって、子供たちの文化芸術の鑑賞・参画機会をほとんどつくれていない ・学校現場から、子供たちみんなが参画できる本事業で「震災後の心のケア」を図りたいと考えている ・震災後に多くの復興イベントが行われたが、一過性のものが多く、継続的に地域の要望に応え、地域に根付いていく企画が実施されていない ・郡内の特別支援学級の子供たちを対象に行っていた交流イベントがなくなり、障害のある子供たちや保護者も、他者との交流機会が減少している **島根県島しょ部 （隠岐諸島・島前地域３島）** ・３島が合同で島前唯一の高等学校の教育魅力化に取組んでいるが、３島間の子供たちの交流や合同のイベントは少ない ・島をつなぐ橋がなく、３島間の行き来も船でしかできないため大人たちの交流も少ない ・３島内にある唯一のホールでもプロの演劇が上演されたことはない ・学校現場からは、「子供たちに本物の文化芸術を体験させたい」という声がある ・地域からは、文化芸術により３島間の交流を活性化させたいという要望がある	各年度における実績を元に、次年度に向けての課題や取組み	H31年度に向けて… ・一般公演で「障害を持つ子どもを公演に連れて行きたいが、騒いだり迷惑をかけるので見せられない」という声があった。急遽バリアフリー演劇でのすべての人に開かれた公演開催を検討する ・「子供たちの笑顔から、地域を元気にしたい」要望に応え、子供たちが町の人たちを巻き込んでいく芸術活動を新たに企画。 ・被災地の範囲を広げ「私たちの地域に来てほしい」という要望に応えていく ・より具体的な成果検証を図るため、アンケート内容を見直していく	R2年度に向けて… ・バリアフリー演劇では「子供たちの手話への興味が高まった」や「これまで文化施設に足を運んだことがない人が来場できた」など、想像以上の成果があった。実施を継続し発展させていくため、地域の福祉団体との連携を強化する ・子供たちの芸術活動では、実施地以外の地域からも要望があがっている。教育委員会との連携を深め、実施地域の幅を広げ、子供たちの芸術活動を継続発展させる ・熊本においては、参加型公演の評判が広がり他地域にも実施を期待する声があった。より広範な地域の人々の鑑賞・参画機会の創出につなげていく	R4年度に向けて… ・上五島の子供たちから発信された「夢」が行き交う本活動を知り「うちでも体験したい！」という学校やフリースクール、福祉施設が増えている。コロナ禍で体験交流機会を奪われた全国各地の子供たちが本活動に参加し交流できるよう、教育委員会と共に準備を進めていく ・全国の子供たちがお互いをより知り、地域への興味を高められるよう、交流の場を設定する ・地域の協力者との連携・信頼があったことで、コロナ禍のなかでも学校や地域での芸術活動を行うことができた。現地に赴くことができない現状のため、地域協力者をはじめ、教育委員会、文化施設とのコミュニケーションを今まで以上に綿密に行う

		R3	R4	達成率
	単年度目標	廃校舎の活用や豪雨被災地での公演を計画し、子供たちの感動する心を育む。地域の「魅力」を盛り込んだオリジナルの演劇を創作。地域の魅力や、地域に暮らす人々との出会いを創出する ❸ 450人	多様な芸術文化に、あらゆる住民が参画し、生き生きと自身を発揮できる祭典を各地で開催。人と人をつなぎ、地域の魅力や人の力を発見し、地域の活力とする。 事業終了後に向けた自走化への取り組みも開始 ❸ 600人	❶ 70% ❷ 88% ❸ 100%
	実績	❶❷集計なし（公演中止のため） **❸ 541人（個人466・団体75）** 子供たちの芸術交流活動や創作活動に賛同する協力者が、北海道から鹿児島県（与論島）までに広がった。仏・印の子供たち・大学も参加、当初の想定を超えた拡がりとなった。 子供たちが自分の可能性を見つめ、遠い地の人とのつながりを実感できている。 また、学校間の交流も生まれ「自分の住んでいるまちはこんなすてきなところだよ！」と一生懸命資料を作成し、手話や英語を使って紹介する子供たちが多くいた。 豪雨被災地では、公演を契機に「未来を前向きに、自分らしく生きていきたい」など力強い感想が寄せられた。 オリジナル演劇の創作活動では「地域の魅力に気がついた」「島の子供たちに伝えたい！」と高校生の地域への愛着が生まれていた。	**❶ 70% （長崎100%・熊本66%・島根100%）** **❷ 88% （長崎97%・熊本81%・島根67%）** **❸ 736人（個人617人・団体119）** 各地の協力者が情熱的に運営を担い、地域への呼びかけを行ったことで、これまで劇場に足を運んだことのない子供たち・大人たち・障害のある人など多様な人が集い、一体感のある劇場空間を楽しんだ。「公演のためにふるさとに帰ってきた子がいた」「共演のために郷土芸能の練習にも熱が入った」など、想像以上の子供たちの新たな行動が生まれていた。 特に島しょ部では、公演を通じ地域への愛着・誇りが生まれていることが確認できた。その感触から、地域内・全国からの事業への期待が高まり、協力金も集まった。	
	各年度における実績を元に、次年度に向けての課題や取組み	R4年度に向けて… ・「生の舞台芸術を体験したい」という声が上がっているが、人的交流の自粛が要請される離島・へき地のため活動ができない状況がある。地域の人々の声にこたえ、各地域の子供たち、地域住民の鑑賞体験機会を創り出すため、具体的な日程や実施方法・企画内容を地域協力者と協議した ・バリアフリー演劇の上演・参加により、手話や字幕といった配慮への興味関心を高める子供たちが多い。今後もバリアフリー演劇の上演を続けていく	R5年度以降に向けて… ・新型コロナウイルスの影響により実現できなかった企画も多くある。5年間で各地域と継続して活動を行ってきたこと、各地に集ってくれた協力者との信頼関係をもとに、より地域に根付き、地域・子供たちの声に応えられる活動をつくっていく	(達成率の根拠) 公演を鑑賞した子供たち・地域住民へのアンケート調査の回答から成果を図った。 ❶子供たち対象の「Q公演が終わったあと、あなたの普段の行動で変わったことはありましたか？」という問いに対し「②学校や地域が今まで以上に好きになった」と答えた令和4年度の回答の割合。 ❷一般鑑賞者への「Q舞台芸術を通して、ご家庭内・地域内で今後どのようなことを期待されますか」という問いに対し、「自分たちの暮らす地域・学校が好きになる」と答えた令和4年度の回答の割合。 ❸協力依頼書（紙・web）の集計5年間総計

3 戦略的芸術文化創造推進事業における課題解決の<u>他に</u>、事業を実施する中で見えた成果について

(1)成果内容	(2)今後、成果を生かせる事業や取組
● 夢を表現し、夢を交換する芸術体験活動の発足 本事業で始まった子供たちの芸術交流活動『とびうおドリームプロジェクト』では、自分の‘夢’を言葉（日本語と英語）で表現し、夢のトビウオに色を塗り・絵を描き、多様な表現が生まれた。そのトビウオが遠くの誰かに届き、遠くの誰かからトビウオが届く中で地域間の交流が広がっていった。「デジタルではない温かみや周りとのつながりを感じることができている」「子供たちが〈未来を生き抜く力〉を育むきっかけとなった」と教育現場からの高い評価を得て、全国40カ所を超える学校・フリースクール・養護施設・院内学級の子供たちが参加。 その後、『とびうお交流会』においては離島やへき地に住む小学生・特別支援学校・ろう学校の児童生徒・福祉施設利用者・フランスのアーティストと子供たち・インドで日本語を学ぶ学生達がオンラインで繋がりました。それぞれが手話や英語、手作りのパネルなども用いながら、学校のこと・地域のことを紹介。様々な質問が交わされた。	**芸術表現による異文化交流プロジェクトへの発展** 「夢」を考える、表現する、伝える、同世代の人の「夢」や住んでいる「まち」を想像する本プロジェクトは、多くの賛同者の手により、今後も継続して実施していく。 また、表現するだけでなく、遠いどこかの誰かの表現を受け取り、それを契機とした『とびうお交流会』のような地域・世代・障がいの有無・国境などのあらゆる違いを超えた芸術表現による異文化交流プロジェクトへと発展させることができる。 現在、フランスの芸術団体が大阪万博2025にて「未来社会の共創」として、本プロジェクトを紹介することをフランス政府に交渉・検討している。
●バリアフリー演劇の一般公演・参加型公演の開始 「この地域に住む障害のある人達にも演劇を見せたい」ーその声に応えるために本事業で始まったバリアフリー演劇の上演は、普段は鑑賞機会に参加していなかった住民達が会場に足を運ぶきっかけとなり、その反響が更に多くの住民の興味関心に繋がり、地域の特別支援学校や社会福祉施設利用者を対象とした公演にまで発展した。 バリアフリー演劇に参加したことで、「手話を習いたい」「福祉の仕事につきたい」という子供たちも多くいた。特に熊本県では、文化庁の他の事業を活用し、バリアフリー演劇に取り組む学校が増加している。 それまでの「バリアフリーは障害のある人のため」という枠組みを取り払い、すべての人が共に集い、演劇を一緒に鑑賞できるバリアフリー演劇は「多様性が受け入れられる〈インクルージョン社会〉の実現、まちづくりの観点からも継続したい」と強い要望へとつながった。	**全国の特別支援学校や社会福祉施設利用者等に向けた巡回公演、文化施設・教育委員会・福祉関係者と連携した地域ぐるみの公演活動** 離島・へき地に限らず、障害のために文化芸術活動を鑑賞・参画する機会のない人達が多くいる。また、バリアフリー演劇は、障害への理解を深め、障害のある人もない人も共に暮らしていける地域づくりのプラットフォーム「共生の広場」として、文化・福祉・まちづくりなどに貢献できる可能性を秘めている。 全国でのバリアフリー演劇の上演は、文化芸術活動の社会的価値の創出につながる取組であり、今後の文化庁事業を通じてこの活動を推し進めていきたい。
● 地域の協力者間のコミュニティの結成 地域の協力者・協力団体の活動は、演劇に参画し感動・達成感を共有したことをきっかけに、個々の活動から協力者同士が連携する新たなコミュニティネットワークへと発展。 特に、長崎県・上五島では、協力者たちによる「劇団風上五島応援隊」という勝手連が発足。フリースクールの立ち上げや島留学の子供たちの受け入れ、島内外の交流イベントの発足など、積極的に活動している。さらに、公演後に行われた「島に特別支援学校をつくる」ための署名活動では、5000人の署名を集め、実際に町・県の教育委員会を動かし、3年後の新設に向け行政が動き始めている。	**地域住民による様々な地域活動の活性化** ５年間で培った協力者との信頼関係を継続し、今後も協力者たちの要請に応えていく。 今回のような地域の協力者・協力団体間のつながりは、協力者同士の新たな連携・分断された地域の架け橋となると共に、個人が考える「今後この地域をどうしていきたいか」という多様な問題意識の共有・問題解決に向けての活動につながっていく可能性がある。 今後はこのような行政・教育・福祉などの枠組み・ジャンルを超えた、地域住民の主体的な動きが、住民が心から求めているまちづくりに向けた要となっていくと思われる。
● 自分たちの暮らす地域の魅力を発見し、人に伝える演劇づくりの実施 オリジナルの演劇づくりに取り組んだ『しまめぐりDOHZEN』では、高校生達が島前３島を巡って取材し、各島の歴史・産業・文化を紹介する特別シーンを考え、脚本や小道具も製作。地域住民に出演も呼びかけ「島前・しまめぐりバージョン『星の王子さま』」を上演した。 その後、上演・制作の様子・子供たちのインタビューを編集しケーブルテレビ放送・地域での上映会が行われさらに視聴者の反響から島後（隠岐の島町）での上映会も開催された。島前ではその後、島民による演劇づくりも始まっている。	**芸術創作による子供たちの地域探求と地域への発信** 自らが主体となって芸術を創ることを契機に子供たちが自分たちの地域を学び、表現するために創意工夫をこらす、かつ地域に向けて発信する機会を自ら創っていくー教育的側面としては総合的な学習となり、地域住民にとっても子供たちの活動から学ぶことが出来る取組だと感じた。

4 新型コロナウイルス感染症による影響と取組について

(1) 影響	(2) 中止・延期をせず、事業実施するのための努力	(3)コロナ拡大の影響を通して得たもの、知見	(4)今後、同様の感染症拡大が起こったことを見据えた取組
	●配信公演の実施 活動地域それぞれで配信公演や上映会を企画した。各地の協力者にケーブルテレビ局や映像制作者を紹介してもらい、無観客であっても住民の参加型公演や、活動地域の住民に特化した配信・上映会を行った。	インターネット配信だけでなく、地域の協力を仰ぎながらの企画となり、地域との新たな連携体制が生まれると共に、「この地域でも上映会を企画したい」といった新たな機会も拡がった。	無観客であっても地域とつながる公演・配信公演であったとしても地域に根ざした配信体制が共感や反響を生むことが分かった。今後同様な事態が起こったとしても‘地域’に寄り添った機会を創りたい。
新型コロナウイルス感染症拡大により、 医療体制が限られる 離島・へき地において 人的交流の自粛が要請され、 現地での公演開催が困難となった。	●学校との共催・高校生との協働 現地の高校生達と複数回のオンラインミーティングを行い、企画について話し合いながら、現地での活動を彼らが主体的に行うと共に、来島できない劇団に代わり彼らが本土に渡り、参加型公演を上演・収録。参加型公演の際には劇団・高校生の双方で感染症対策として参加形態の検討・検査徹底なども実施した。	人的交流の自粛が厳しく制限されていても、子供たちの「やりたい」という想いが地域の大人達をも動かしていく象徴的な事例となった。	文化芸術活動が地域の安心・安全を脅かしてはならないが、子供たちの「やりたい」を大人が画一的に制限してはならない。同様の事態が起こっても、彼らの考えを聞き、話し合う中で実現できる可能性を模索することを大切にしたい。
	●子供たちによる芸術交流活動の開始 公演だけではなく『とびうおドリームプロジェクト』に代表されるリモートでも実現可能な体験・交流活動を実施した。全国・海外で約4,000人の子供たちが参加。	『とびうおドリームプロジェクト』の３年間の中で対象地域の子供たちだけでなく、全国や世界の子供たち・社会福祉施設利用者にも活動の輪が拡がっていった。その中には、院内学級・フリースクールの子供たちも含まれ、本事業の中で最もインクルーシブな活動となった。	地方や離島・へき地だけでなく、様々な理由により文化芸術活動に参画する機会のない子供たちがいる。同様な事態如何ではなく、そこにいる子供たちの存在に気付き、より包括性のある創造活動に取り組みたい。

5 1～４以外に、貴団体において周知したいこと 等

本事業を５年間継続して行うなかで、たくさんの出来事がありました。
子供たちの明るい未来のこと、子供たちの育っていくふるさとのこと、まちに暮らす人ひとりひとりのことを考え、
真剣に取り組んでいる人たちとの出会いがありました。

何百枚もの公演アンケートの中から小さな声を拾いあげて、そのひとりのために力を尽くす現地の担当者は、
地域という場所で、文化芸術のなすべきことを教えてくれました。
そして、障害のある子が本番中の舞台にあがってきたこと。
彼は、見る側・演じる側の「舞台はこうあるべきだ」という私たちの価値観を変えてくれました。

地域に根付き、地域を知り、子供たち・地域の方々と共に活動することで、舞台芸術のもつ可能性を発見することができました。

５年間でいただいた、各地の皆さんの声をご紹介します。
これらの声と共に、人にとって、社会にとって演劇とは何かを考え続けていきます。

感想・評判

「地域活性化の源泉となる芸術文化を未来につないでいきたい」
長崎県島しょ部プロジェクトの核となった新上五島町から、事業の継続と団体と地域住民のつながりが島の子供たち・大人たちに及ぼした効果、実際の変化を踏まえ、
文化庁への謝意が伝えられています。本事業が、文化芸術の力で子供たちの可能性、地域の未来を探る良い機会となったこと、
町民の多くから今後も島での文化芸術の継続を望む声が多いと伺っています。（石田信明氏（新上五島町町長）からいただいた原稿から抜粋）
【公演による子供たちに対する効果】
◆ バリアフリー演劇に触れて、深い感動を受け、思いやりの心を持ち、劇団員の皆さんと一緒に過ごすことで、安心した空間に浸ることができています。
◆ 公演をみんなで創り、参加することにより、子供たちの表現力や創造力が豊かになっています。
◆ 子供たち（自分）を応援してくれる大人の存在を感じることができています。
→これらのことにより、子供たちの感性が磨かれています。

【公演による大人に対する効果】
◆ バリアフリー演劇というこれまで全く見たことのない演劇に触れて深い感動を受けています。
◆ 劇団の活動を支援しようと町民有志による応援隊が結成されています。
◆ 子供たちが舞台芸術に触れた感動体験は、町全体の地域住民の動きへと広がり、子供たちと関わる大人が増えています。
◆ 文化の薫り溢れるまちづくりを目指す中で、町民がまとまることができています。
→ まちづくりの観点からも、これから生まれてくる子供たちをはじめ、島民の皆さんにバリアフリー演劇に触れていただくなど、地域活性化の源泉となる芸術文化を未来に繋いでいきたいと思います。

「ひとりひとりの子供の心に蒔いた種が芽吹き、成長していくことが楽しみ」
子供たちが舞台芸術公演を間近に鑑賞し、みんなで共演したことが、その後の変化や新しい行動につながっていることを、多くの保護者や教員の方々から伺うことができました。

● 普段は学校に来られない子も、みなさんが来ると伝えたら朝から学校にきて、到着を待っていました。これまで教員との接点を作ろうとしなかった彼のお母さんや家族も港までみなさんを見送りに来ていた。
　彼自身も、家庭も皆さんとの触れ合いの中で、徐々に変化が見られます（小学校教頭）
● 特別支援の子供やクラスメイトの様子を見ていると、演劇に対する「芽生え」、興味が出ていると思います。
　大人からの植え込みじゃなく、子供たち自身が発信し、一つの目標に向かって頑張るようになりました（元教員）
● 「未来誕生」のオリジナルの帽子をお母さんに特別に買ってもらい、「僕は将来、風の劇団員になるんだ！」と満面の笑みで宣言した男の子がいた（地域住民）
● 中学生の頃、風の皆さんと共演したことが忘れられず、公演に合わせて福岡から島に駆けつけた女性がいた（地域住民）
● とても嬉しいことがありました。普段自分の興味のあることや想いを積極的に話すことができない児童が、音響に興味を示し、自ら質問に行っていたことです。
　夢中で話を聞く姿を見て、その子の将来の夢が広がったのだとすぐに思いました（教員）
● 人見知りの子が公演に参加し、数年経った今も友達といい関係が築けていて本当に感謝している（アンケート）

「会場のみんながひとつになった感覚になりました」
「障害の有無や年齢にかかわらず、町民が芸術文化に触れ、体験できる公演を」という要望に応え、あらゆる人が集い、競演できる一般公演を各地で開催。
みんなが一緒に見ることで生まれた変化は、町の新しい動きへと直結しています。

● 息子たちとの会話も増えて、もっともっとできれば毎年、こんな素敵な機会が欲しいですね（アンケート）
● 芸術の力に気付かされた。普段接している施設の利用者の方々が、演劇を集中して楽しんでいる姿に、多くの発見がありました（社会福祉法人）
● 地域の行事、歴史、人とのつながりの大切さを見直した（アンケート）
● 私の息子は、一般公演の最中にステージに上がってしまいました。あの時、私は我が子がとんでもないことを、みなさんの邪魔になることをしてしまったと、恥ずかしさでいっぱいになりました。
　でもそれは驚きと感激に変わりました。「ものも言えない障害児」を演劇の中に、あたかも台本どおりのようにステージで受け入れてくださいました。私は公演終了後すぐに我が子の行為をみなさんに謝罪しました。邪魔をしてしまいました、と。しかし謝罪は拍手で消されてしまいました。その拍手は私の謝罪に対してではなく、我が子への拍手だったと思い、胸が熱く熱くなりました（地域住民）
● 風の演劇に魅了され、感動した仲間たちが立ち上がり、結成したのが「劇団風上五島応援隊」です。隊長は一般公演の舞台に飛び入り参加をした子のお父さん。障害のある我が子を
　ステージに迎え入れてくれた俳優の皆さんの気持ちを感じ、「これから先ずっと応援し続けたい」と活動の度に各地で語っています（地域住民・劇団風上五島応援隊副隊長）

「これからの子供たちにも本物を鑑賞・参画する機会を与え続けていきたい」
5年間の積み重ねは地域の中で反響を呼び、各地からの「継続を願う声」「新たな要望」へと繋がっています。
これらの声こそが、本事業が離島・へき地・被災地において受け入れられ、高い評価を得ている成果であると思います。

● 新上五島町では、人口減少・少子高齢化対策が重要な課題の一つとなっており、文化の薫り高いまちづくりは町民の願いでもあります。これからも子供たちを含め町民皆様に対し、
　芸術文化活動の推進に取り組んでまいりますので、引き続き、島への事業を継続してくださいますよう、よろしくお願い申し上げます（新上五島町教育委員会）
● 島に住んでみると様々な分野での本土との格差がある。その格差解消を国が、文化庁が英断を持って支援してくれた。その英断がなければ、過疎の島で「質の高い舞台芸術に触れる感動」は
　得られなかった。感動は人を育て、地域社会を豊かなものへ導く。
　どうか一過性のものとはしないで欲しい。感動の輪が広がり、しっかりと根付くまで、島での活動が継続されるよう、「感動者たち」と共に切望します（長崎県・地域住民）
● 離島という条件のため、本物の芸術に触れる機会は多くなく、また文化活動自体もそれぞれの自治体や教育委員会単位で行われるため、島同士の交流につながることも少ない。
　本物の芸術には、人をひきつけ、ひとつにする力がある。こうした活動が続いていくことで島前がひとつになり、また感性豊かな子供たちを育む土壌づくりにもつながっていくことを期待する（島前・教育委員会）
● 観劇者が関したことは現在「点」であるが、想いは同じであり、ここから「線」となり、「面」となっていく。
　継続して公演を行っていくことが、地域の人と人、そして地域の人たちと障害者や不登校の児童生徒などを繋いでいく要となっていくと思われます。
　これからも子供たちが「夢」をもち、前向きに進んでいくように、文化芸術が地域にしっかりとしみこんでいくように、一緒に取り組んでいけたらと思います（熊本県・文化施設運営者）
● このプロジェクトは、特別支援教育で学ぶ子供たちにとって、文化や芸術に生で触れることのできる貴重な機会であるとともに、演劇を鑑賞して楽しみながら、
　自分の内面を様々な形で表現することを学ぶ場としても非常に大切だと考えます。心を揺さぶられる体験や感動の共有などを通して、人とのつながりや温かみ、
　感受性や道徳性を豊かに育んでいけるプロジェクトとして、ぜひ今後も多くの子供たちが共感していけるものになって欲しいと願っています（熊本県・特別支援学校教諭）

実施プログラム一覧

子供たちの参加型公演
星の王子さま
作：サン＝テグジュペリ
構成・演出：浅野佳成

子供たちの参加型公演
ヘレン・ケラー
～ひびき合うものたち
作：松兼功 演出：浅野佳成

ジャンヌ・ダルク
作：マテイ・
ヴィスニュック
演出：浅野佳成

Touch ～孤独から愛へ
（原作 ORPHANS）
作：ライル・ケスラー
演出：浅野佳成

子供たちの芸術交流活動
エクリチュール・
バガボンド
企画・演出：オリビエ・コント

子供たちの芸術交流活動
トビウオの森 とびうお
ドリームプロジェクト
企画・演出：オリビエ・コント

地域住民の参加体験型プログラム
トビウオくくりつけ祭
企画・演出：オリビエ・コント
渋谷愛

5ヵ年事業内容

	1年目 2018年度・平成30年度	2年目 2019年度・令和元年度	3年目 2020年度・令和２年度	4年目 2021年度・令和３年度	5年目 2022年度・令和４年度
長崎県島しょ部（新上五島を中心とする）	1 新上五島町・学校での参加型公演『星の王子さま』 2 一般公演『ジャンヌ・ダルク』＠鯨賓館ホール	1 新上五島町・学校での参加型公演『星の王子さま』２カ所 2 一般公演『バリアフリー演劇 ヘレン・ケラー』＠鯨賓館ホール 3 子供たちの芸術体験活動『エクリチュール・バガボンド』２ヶ所	1 子供たちの芸術交流活動『トビウオの森～とびうおドリームプロジェクト』８ヶ所	1 子供たちの芸術交流活動『トビウオの森～とびうおドリームプロジェクト』９ヶ所	1 新上五島町・学校での参加型公演『バリアフリー演劇 ヘレン・ケラー』 2 一般公演『郷土芸能と共演！バリアフリー演劇 星の王子さま』 3 子供たちの芸術交流活動『トビウオの森～とびうおドリームプロジェクト』
参加・体験者数	2公演 536 人	5公演 1427 人	413 人	524 人	4 公演 420 人
協力者数	49 人 5団体	94 人 13 団体	115 人 21 団体	219 人 45 団体	237 人 77 団体
熊本県被災地（上益城郡を中心とする）	3 御船町・学校での参加型公演『星の王子さま』 4 一般公演『ジャンヌ・ダルク』＠御船町・カルチャーセンター＠熊本市・火の君文化センター	4 山都町／御船町・学校での参加型公演『星の王子さま』２ヶ所 5 一般公演『ヘレン・ケラー』＠熊本市・火の君文化センター	2 御船町・学校での参加型公演『星の王子さま』 3 公演映像配信・上映会『みんなに届け！星の王子さま』 4 子供たちの芸術交流活動『トビウオの森～とびうおドリームプロジェクト』１ヶ所	2 球磨郡・学校での参加型公演『バリアフリー演劇ヘレン・ケラー』 3 YouTube ライブ配信『バリアフリー演劇 星の王子さま』 4 子供たちの芸術交流活動『トビウオの森～とびうおドリームプロジェクト』９ヶ所	4 御船町・学校での参加型公演『バリアフリー演劇 ヘレン・ケラー』２回 5 一般公演『バリアフリー演劇・星の王子さま』＠熊本市・火の君文化センター
参加・体験者数	3公演 805 人	3公演 932 人	2公演 1540 人 18 万世帯（ケーブルテレビ配信数）	2公演 2856 人 18 万世帯（ケーブルテレビ配信数）	3公演 899 人
協力者数	47 人 4団体	66 人 7団体	87 人 15 団体	157 人 17 団体	253 人 22 団体
島根県島しょ部（隠岐諸島・島前地区を中心とする）		《実施準備期間》	5 参加型３島配信公演『バリアフリー演劇・星の王子さま』 6 子供たちの芸術交流活動『トビウオの森～とびうおドリームプロジェクト』３ヶ所	5 参加型配信公演『島前特別版・バリアフリー演劇 星の王子さま』 6 子供たちの芸術交流活動『トビウオの森～とびうおドリームプロジェクト』	6 一般公演『Touch ～孤独から愛へ』＠海士町立海士中学校 7 中ノ島／西ノ島・学校での参加型公演『星の王子さま』２回
参加・体験者数		0 人	1公演 185 人 3073 世帯（ケーブルテレビ配信数）	1公演 45 人 10116 世帯（ケーブルテレビ配信数）	3公演 286 人
協力者数		25 人 13 団体	61 人 13 団体	90 人 13 団体	100 人 20 団体
全国・海外			7 子供たちの芸術交流活動『トビウオの森～とびうおドリームプロジェクト』２地域	7 子供たちの芸術交流活動『トビウオの森～とびうおドリームプロジェクト』23 地域（海外４地域含む）	8 子供たちの芸術交流活動『トビウオの森～とびうおドリームプロジェクト』14 地域（海外４地域含む）
参加・体験者数			46 人	879 人	910 人
参加・体験者数 総計	1,341 人 9 団体	2,359 人	2,234 人	4,304 人	2,515 人
協力者数 総計	96 人 9 団体	185 人 33 団体	263 人 49 団体	466 人 75 団体	617 人 119 団体

どこにでも「劇場」を運び、演劇を届ける

――会いたい人に、会いに行く――

離島や山間部という地域的な条件によって、普段劇場に足を運ぶ機会のない人たちの元へ出かけ、
本格的な劇場を運び演劇公演を開催しました。
学校は、子供たちはもちろん保護者や地域の方々の交流の場、地域の伝統芸能の継承の拠点でもあります。
学校と連携し多くの方にお手伝いいただき、学校の体育館を劇場空間へと変化させたことで、
地域を丸ごと巻き込んだ公演が可能となりました。

みんなで演劇を見る、体験する

―そして新しいドラマが生まれた―

本格的な舞台芸術を見るのは初めて、という子供たち。彼らが間近に演劇を見て、
自由に触れて、出演者・スタッフと交流し、自らも共演できる公演を各地で展開。
その時に生まれる、ひとりひとりの子供たちの新しいドラマ――「不登校の子も、みんなと一緒に
参加できた！」「あの子が笑顔を見せた」「子供たちが真剣に舞台を鑑賞する姿に驚いた」――が
地域で大きな反響を呼びました。
ひとりの感動が言葉となって地域へと伝播し、それぞれの地で「子供たちの成長」を見守る
ネットワークへと派生しています。

暮らしている地域を舞台に
――子供たちが表現者となる――

見る･鑑賞する経験から一歩進めて、新たに、子供たちが自らの想いを
表現する芸術活動も始まりました。
いつも何気なく通り過ぎていた、フェリー乗り場や街角が子供たちの活躍する舞台へと変貌。
子供たちが心を込めて描き、掲げる「夢」がその地に暮らす人々の元へと届けられました。
また、子供たちが見つけた地域の魅力を伝えていくオリジナルの舞台も生まれています。
子供たちの吹かせた芸術の風は、地域を巻き込み、さらには全国、世界の人々を動かしています。

地域のあらゆる人が集い、競演する
―ボーダレスな芸術の祭典―

住民誰もが鑑賞者となり、表現者となる一般公演を、地域の文化施設等で開催。
子供たちの「もう一度演劇を見たい！」という声に後押しされた保護者や、
近所の人から誘われた地域の方々、地元の社会福祉法人やフリースクール・PTA、
伝統芸能関係者など、多様な方々が文化施設に集まりました。
障害の有無や年齢の違い、分野の隔たりを越えて競演する「バリアフリーな劇場体験」が、
また劇場に行ってみよう！そんな意欲へとつながっています。

地域の皆さんと共に考え、共に取り組む

―各地で活躍する「協力者」―

各地での活動を支え、動かしてきたのは、地域の方々の願いと行動力に他なりません。
公演をきっかけに、「文化芸術の力で地域を元気にしたい」「子供たちに誇りを持って成長してほしい」「地域の魅力をいろんな人に伝えたい！」さまざまな想いが膨らみ、地域の人々の手によって次なる活動へと発展していきました。
「未来誕生」の伴走者となり、事業が終わってもなお地域で活動を続ける「協力者」が各地に生まれ、今も地域のために奔走されていることが、本事業の最も大切な成果です。